同窓会報「城陵」が誕生

定期的に発行、全会員に

－ 第1号 －
発行／岐阜県立恵那高等学校同窓会
所在地／岐阜県恵那市大井町1023-1
（〒509-7201）
TEL 0573-26-1311
FAX 0573-26-1313
発行責任者　柘植　章
題字は石井新太郎校長［高12］

恵那高等学校同窓会は、創立以来、母校発展のための協力と会員の親睦を目的に、脈々と続いてきた伝統ある団体であります。旧恵那中学校、旧恵那高等実科女学校、恵那高等学校に学ばれた方は、だれでも自動的に同窓会の会員となります。その数二万二千人に上りますが、しかし、多くの卒業生の方々は、ご自分が卒業生であっても同窓会員であるという意識が、いま少し薄いのではないでしょうか。それは学校を卒業して後、母校の出来事、変遷についての情報が、直接伝わってこないところにも原因があるように思われます。

そこで、平成十四年恵那高等学校創立八十周年を迎える時期に、定期発行を目的とした同窓会報を刊行することになりました。このことは、同窓会を活性化するか、各支部においていろいろな活動をしておられることとか、在学生の中にも全国的な規模での表彰を受け、将来を期待される人がいることなどは、我々は断片的に承知しているのみです。

これらを含む恵那高のあらゆる情報を定期的に発信し、また、会員の方々から情報を提供していただくなどして、この会報を同窓生が必要とする情報の交差点、核、に育て上げるべく努力したいと思っています。

八十周年に向けて、現在いろいろ準備を進めているところですが、皆さんのご理解ご協力をお願いします。

この詳しい年度別の一覧表は、会報第2号に特集として掲載します。

同窓会活動の活性化のため

恵那高等学校同窓会長
柘植　章［高8］

新世紀を迎え、大きな変革のうねりの中に身を置いていることが、実感される昨今です。同窓会員の皆様には、ご清栄にてご活躍のことと、お慶び申し上げます。

いよいよ母校は、創立八十周年を迎えることになりました。一九二二年（大正一一）の創設以来、卒業生は二万二千余名を数えるに至り、各地、各方面で活躍されています。時折寄せられる諸先輩の目覚ましい活躍の報に接することほど、現在の在校生や、母校に身を置く者にとって、これに勝る歓びはありません。

つい最近では、生命工学専攻の鈴木正昭氏［高18］が、日本科学会の学術賞を受賞され、続いて国の学術創成研究プロジェクトのリーダーに、就任されました。バイオの基礎理論を礎に、新薬開発を視野にすえた、画期的な一大プロジェトだそうです。

私たちはこの報に歓声をあげ、夢や志を抱くことのちがどんな様子でどんな活躍をしているのかも、知っていただければと存じます。

「この土（つち）より身を起こした」方々と「この土より身を起こさむ」とする者たちが、この城陵の地に、温かい心を寄せ合う縁として、この会報『城陵』の果たす役割は大きいと信じます。これが私たちの組織をつなぐ軸となって、九十年、やがて迎える百年と、母校が大きな螺旋形（らせんけい）の渦を描きながら、発展していくのを祈ること、真に切なるものがあります。

組織の軸となり発展を期待

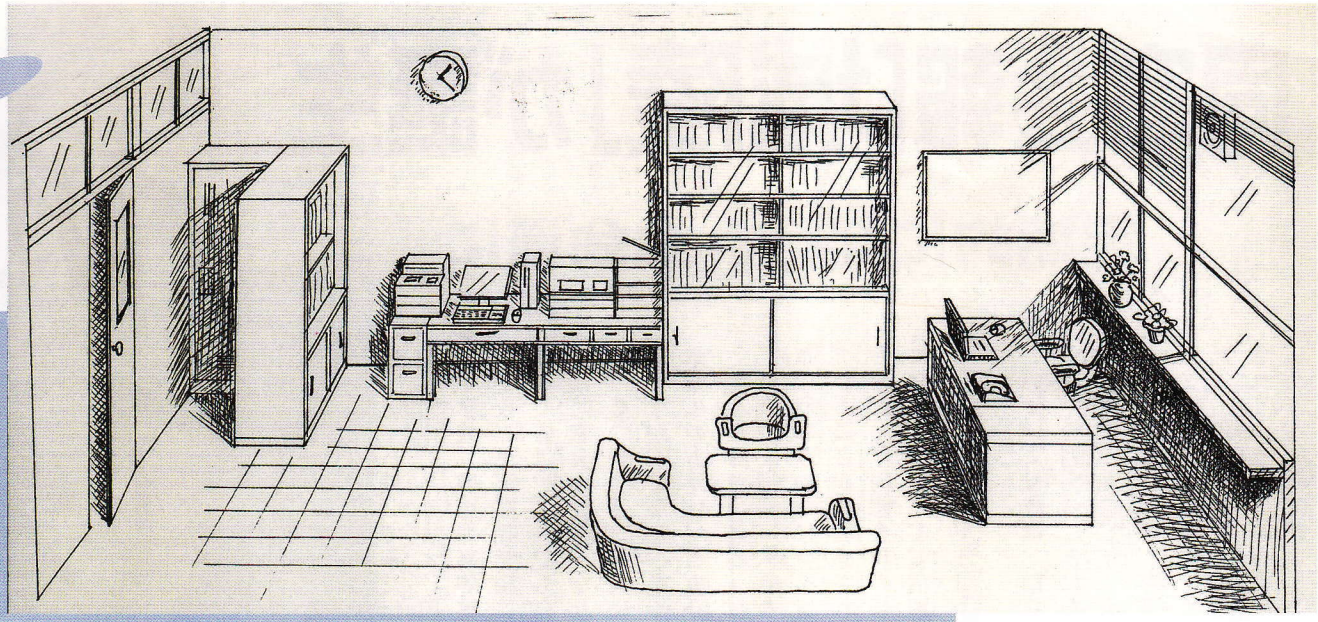
恵那高等学校長
石井　新太郎［高12］

卒業生二万二千人を超す

母校は来年80周年を迎えますが、今年の三月、恵那高第53回生が卒業した時点で、卒業生の総計は二万二千百三十一名となりました。これは、旧制の恵那中学校、恵那高等実科女学校に恵那高等学校を加えた人員です。

る意味で誠に喜ばしいことだと感じ、重要な同窓会活動の一つとして、力を注いでいきたいと考えています。

各分野において活躍をしておられる卒業生の方々と貴さに心を打たれ、鼓舞されています。こういった朗報は、是非会員の方々と歓びを共有したいと存じます。現在の恵那高校で、後輩た



同窓会事務局のイメージ図

創立80周年の記念事業

来年11月に記念式典

同窓会事務局も設ける

来年は恵那高等学校の前身・恵那中学校が大正十一年（一九二二）に創立されてから八十周年になります。このため同窓会では各種の記念事業を計画し、今年五月二十日の総会に諮ったところ、満場一致で承認されました。

ただし、創立七十周年では「花の木会館」建設という大規模な募金活動を行ないましたが、八十周年については一昨年総会で「大規模な募金活動の事業は行なわない」と決定しており、募金活動は、やや控え目となりました。

いずれにしても、記念事業は会員の皆様の母校に対する温かいご理解とご協力が必要です。財政面でのご支援と記念行事への積極的なご参加を、心からお願いします。

①記念式典の挙行

記念式典は平成十四年十一月十日（日）に恵那文化センター大ホール（恵那市長島町中野）で開催する予定で、記念講演のほか多彩な催しを計画しています。会員の皆様、多数のご参加をお待ちしております。

②事務局の設置

母校に上図のようなイメージの同窓会事務局を設け、専任の嘱託員を置いて、80周年記念事業の推進や同窓会費、同窓会名簿の管理、同窓会報の発行などに当たり、会員相互の連係を深め、同窓会活動の活発化を図ります。

③名簿などの発行

「80周年記念同窓会員名簿」を同封の近況確認調査用カード（返信葉書）の返送により改訂し、発行します…一冊　五千円

広告（1ページ五万円、2分の1ページ三万円）をご協賛ください。ご協賛いただいた方には名簿を一冊進呈します。

また「80周年記念誌」を発行します…一冊千五百円

この記念誌は80周年記念事業の募金（一口五千円）二口以上をご寄付いただいた方に一冊贈呈します。

記念事業にご協力を

募金目標額は二千万円

80周年記念事業、特に同窓会事務局の設置と専任嘱託員の配置のため、寄付金を募ります。会員皆様のご厚意とご協力をお願いします。

☆募金期間…13年6月15日から14年9月30日まで☆募金方法…一口五千円

二口以上ご寄付された方に記念誌を一冊贈呈☆払い込み方法…募金趣意書に同封してあります。

80周年記念事業予算

［収入］　単位　万円

寄付金	二、〇〇〇
積立金	六〇〇
収入合計	二、六〇〇

［支出］

総務費＝式典案内、礼状、会報の印刷費・送料など	三六〇
式典費＝会場・表彰費、記念品代など	三九四
記念事業費	
事務局設置	五〇〇
同　運営費	八四一
贈呈用記念誌	二五五
贈呈用名簿	一五〇
記念講演	一〇〇
支出合計	二、六〇〇

名簿・記念誌特別会計

［収入］

名簿・記念誌販売収入	一、一三一
広告収入	八六九
収入合計	二、〇〇〇

［支出］

名簿・記念誌出版費	二、〇〇〇
支出合計	二、〇〇〇

会報『城陵』を全会員に

情報を届け連係の強化

④会報の定期発行

同窓会報「城陵」の創刊号をお届けしました。いかがでしょうか。まだ情報網が整わないため、地域、卒業期に不均衡な点がありますが、今後、これを是正しながら定期的に発行し、毎号全会員二万二千名に送付する計画です。発行目的は会員相互の連係を強めて団結と親睦を図ることにあり、その情報発信メディアとなるわけです。この会報の発行は年会費一人千円ずつ支払っていただき、それをもとに年数回発行する独立採算制です。従って皆様のご協力を得ないと発行できません。毎年一回、振り込み用紙を同封（今年は第2号に同封）しますので、どうかよろしくご協力くださるようお願いします。

また「会報が成功するか否か」のカギは「会報の内容を会員一人一人の立場に立って編集し、会員に取って重要で関心のある情報を、分かりやすくて興味の持てるよう届けることにある」といえます。これが編集の基本方針です。

一方、会員の皆さんには全員が支局になっていただき、会報にふさわしい話題や原稿を事務局までどしどしお寄せください。例えば、各地区の同窓会やクラスごとの活動、同窓会員の活躍の話題など、同窓会や会員に関するニュースなら大歓迎です。

写真＝焼け落ちる寸前の校舎（正門付近から撮影）

公式ホームページも開設

http://www.enat.org/~enako-ds/

インターネットで新情報

“世はIT時代”。恵那市を例に挙げると、Ena，T（エナット、恵那市情報ネットワーク）が市民に無料開放されているせいもあって、人口三万六千人のうち四千五百五十一人（本年六月三日現在）が入会し、インターネットを楽しみながら利用している状況です。

これに刺激されて、同窓会でホームページの開設が話題になったところ、学校の素早い対応で、三月二十三日、同窓会の公式ホームページが恵那市の好意により無料で開設でき、新しい情報をインターネットで流せるようになりました。

あなたも是非接続してみてください。

問題は今後の内容の改訂ですが、同窓会では今年度予算に十万円を計上しました。

掲載内容も今後充実を図る計画ですが、主な項目は「会員のページ」＝同窓会規約、80周年記念事業、「学校紹介」＝学校の沿革、学校の歴史、恵那高ホームページなどです。

このための技術提供も歓迎します。ホームページを作る技術のある方はどしどし名乗り出て、同窓会のために、すばらしいホームページを作ってください。ご協力を是非お願いします。

八十年の軌跡 ①

木造校舎が全焼

1962

学校の歴史80年。この間には、いろいろな出来事がありました。その中でも、特に重要なものを拾い出し、順次紹介してみましょう。

昭37年　木造校舎が焼ける

重要な出来事のトップクラスの一つは、何と言っても「旧・木造校舎の全焼」でしょう。

昭和三十七年（一九六二）八月二十五日午前四時ごろ、恵那高の木造校舎本館東北側から原因不明の出火。午前六時ごろまでに、二階建て校舎、理科室、屋内体育館など約三千五百平方㍍を全焼しました。

四十年の歴史と伝統を持ち、恵那山や笠置山にマッチした清そな木造校舎は、無残にも煙となって消え去り、古い同窓生たちの脳裏に残るだけとなりました。

小説「憂愁平野」＝井上靖著、週刊朝日・昭和36年10月から約一年間連載＝の中に、主人公の美沙子が母と縁談のことで言い争い、気晴らしに恵那高へ散歩に行く記述があります。

美沙子は門を出た。美沙子は伯父の家へ（縁談を断りに）行く気持ちはなかった。久しぶりで、自分が卒業した高校の校庭でも歩いてみようかと思った。

高校は歩いて十分程のところにある高台の上にあった。（中略）

美沙子は高校の校庭から見る恵那山が一番好きだった。久しぶりでそれを見たいと思った。美沙子は桜樹の多い校庭を歩いた。ほんの僅かの生徒が校庭の向うの隅を歩いているのが見えたが、そのほかには全く人影はなかった。

作者の井上靖さん、挿絵の生沢朗さんが取材に訪れたのは、恵那高が全焼する約9カ月前のこと。挿絵には校庭北端から木立ち越しに見た木造校舎と恵那山が描かれています。井上さんも、生沢さんも、ここが主人公の一番落ち着ける場所と考えたのでしょう。

校庭から見る焦げ茶色の校舎と恵那山―それは我々にとっても、一番気分が安らぐ風景でした。

ちょっと一言

同窓会報『城陵』の創刊に当たり、各地区の支部長（各地区会の会長）さんに「同窓会に対する抱負、意見など」のご寄稿をお願いしました。題して「支部長から、ちょっと一言」。でも、話題の中心は、やはり〝支部活動の活性化〟のようで、あれこれ腐心されている状況がうかがえます。他支部の活動を参考に、各支部の活動が盛り上がっていくことを期待します。

総会に百二、三十名集う

名古屋支部長（名古屋恵那高会会長）
各務 芳樹 ［中18］

名古屋恵那高会が創立されたのは、今から四十五年ほど前になります。

名古屋に勤務している方を含め、現在の総会員数は千数百名で、会員の比較的正確な名簿も出来上がっております。

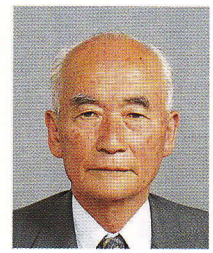
卒業年度別に世話人の方を決め、年に二回ほど集まっていただいて、世話人会を開いております。そのおかげで、毎年十一月後半に開催されます総会の方も、百二十名から百三十名集めることができ、盛会な会合を重ねております。

各務芳樹支部長

その他には、年二回、ゴルフ会を開催しております。

会報で支部活性化を願う

瑞浪支部長（瑞浪恵窓会会長）
渡辺 千介 ［中22］


渡辺千介支部長

恵那高創立80周年―新教育制度により、私たちのように中学は最後の卒業、高校はスタートの年に当たった戦中戦後派にとっては、感慨深いものがあります。瑞浪恵窓会は、会員九百二名（うち恵中卒は百三十二名）で、親睦・交流を図る総会も、隔年開催ということで定着しました。

今年は総会の年です。課題は、いかにして若い会員の参加を増やし、会員数の増加による低調化しつつある会の存続・発展を図るかの一言に尽きます。

会報「城陵」の発行が支部の活性化に一石を投ずれば、と願うものです。

「城陵」の充実・発展を

土岐支部長（土岐市城陵会会長）
石浜 健 ［中23］

石浜 健支部長

近く母校の創立80周年を迎えるに当たり、祝福と同時に感慨深いものがあります。大正十一年に開校され今日まで80年の歴史の中で、私ども中学23回生はちょうど戦中そして敗戦を経験した思い出深い中学生時代を忘れることができません。土岐市城陵会は四百名超の卒業生が登録されておりますが、まだ関心度が低く、支部役員の間で今後の活動方針を検討しているところです。年一回の総会だけで終わっている状況では、発展は望めません。文化活動、ボランティア活動も良いでしょう。同窓会報「城陵」の今後の充実・発展を心から期待しています。

同窓会本会の動き

12年度総会で会長交代

新会長に　柘植　章さん

平成12年度の同窓会総会は、五月二十一日（日）に「花の木会館」で開催し、11年度の事業・決算報告、役員改選、12年度の事業計画・予算案を審議し、いずれも承認しました。

役員改選では、7年間、会長として多大な貢献をされた阿部龍輔さん［中19］から新制高校卒業生の柘植章さん［高8］にバトンタッチされました。副会長だった柘植さんの後任には、市川康夫さん［高19］が就任しました。

創立80周年の記念事業

準備会、実行委員会を開く

平成十二年十二月四日、創立80周年記念事業準備会を同窓会役員、PTA本部役員、学校関係者の三者で開き、記念事業の実施を了承し、三者で実行委員会を組織して取り組むこととなりました。

次いで、今年一月二十四日には第一回の実行委員会を開き、組織・事業・予算の検討を行い、同13年度の同窓会総会で承認を受けて、具体的な準備をすることになりました。

記念事業 具体案が決まる

平成13年度の同窓会総会で

平成13年度の同窓会総会は、五月二十日（日）「花の木会館」で役員、学校関係者ら六十名が参加して開き、12年度事業・決算報告、役員の改選、13年度事業計画・予算案、創立80周年記念事業計画（詳細は2ページに掲載）などについて審議し、いずれも承認しました。

特集 支部長から

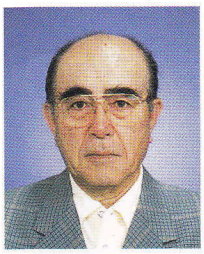
総会の出席率を上げるため各支部では、記念講演を開いているところが多い。東京支部では、平成４年12月、ゲストに草野満代さん［高37理］（当時ＮＨＫ、現在ＴＢＳニュース・キャスター）を招いて大いに盛り上がった。

月例会 延べ二一〇回

東京支部長（東京恵中会会長） 佐々木 慎一［中19］

東京恵中会は、当初1回生から10回生までの方々によりスタートし、現在裾野が広がり25回までの方々が、毎月十五日、銀座ライオンに集い、昼食会の形で開催しています。

回数を重ね十八年間に二百二十回に至っております。平均十五名ぐらいの出席で、いささか寂しい感があり、せっかく先輩たちが築いてこられた恵中会を、断絶することは忍びないので、何とか後輩たちに引き受けてもらいたいと、苦慮しているところです。


佐々木慎一支部長

恵那高卒の東京近郊在住者が多数おられると思いますが、連絡の糸口さえつかめず、今のところ対応策がないのが現状です。

母校のためにご協力を

恵那支部長（恵那城陵会会長） 水野 智雄［高5］

70周年記念行事に向けて準備が始まった昭和60年代、地元に同窓会支部がないことが、問題となった。かつては旧制中学の城陵会が有ったそうだが、当時、その実態が消えてしまっていたのである。

「地元に支部なしでは記念事業はおぼつかない。おまえが再興せよ」と、当時の糸魚川校長から命じられたのが、教頭の私であった。こんな経緯で誕生したのが恵那城陵会である。「地元の神様はあまり有り難くない」とも言われるが、これからも、母校の一助となるよう皆さんのご協力をお願いする次第である。

水野智雄支部長

支部運営を若い世代に

中津川支部長（中津川恵那高会会長） 間 譲嗣［中24］

間　譲嗣支部長

中津川恵那高会（恵蘇会・けいそかい）は旧制中学第一回生の遠山巌氏を初代会長として昭和27年、恵蘇会の名称で発足し、今日まで半世紀が経過しました。私はこの伝統の重みを痛感しながら会の維持運営に携わっておりますが、最近総会への出席者が減少傾向にあり、今後の在り方に不安を感じております。従って、ここ数年来、年次総会には各地で活躍されている同窓生に講演をお願いするなど、会の活性化に知恵を絞っております。

来る母校の80周年を契機に、当支部を高校卒業生中心の運営体制に切り替え、会の発展を期したいと思っています。

会報で使う略記号

会報『城陵』では、毎号、本文の省略のため次の略記号を使用します。

［中］＝恵那中学校
［実］＝恵那高等実科女学校
［高］＝恵那高等学校
［定］＝恵那高等学校定時制
［分］＝恵那高等学校定時制蛭川分校

本…本科、別…別科
普…普通科、理…理数科、商…商業科、家…家庭科

例えば［中20］は恵那中学校第20回の卒業（同期修業を含む）の省略です。

ただし、［中24］［中25］は恵那中学校併設中学校の卒業（同期修業を含む）の省略となります。

同様に［高40普］は恵那高等学校第40回普通科の卒業（同期修業を含む）の省略です。

後輩たちの偉業・二題

「先輩たちに負けぬ！」と後輩たちも頑張っています。創刊号では、この一年間にすばらしい偉業を達成した、二人の後輩たちの話題をお届けしましょう。

東海高校総体で優勝

陸上八〇〇の百々昌紀君

昨年六月二十四日、岐阜市の長良川競技場で行なわれた東海高等学校総合体育大会（東海高等学校体育連盟、岐阜・愛知・静岡・三重県教育委員会など主催）の陸上・八〇〇メートル競走で、百々昌紀君（どど・まさのり、当時二年生、中津川市実戸出身）が、1分54秒76で見事優勝しました。

このレースはゴール直前で猛烈な競り合いとなり、百々君が同タイムの日下部大輔君（益田南高）をわずかに制して栄冠を獲得。

同君はこの後、岐阜市で開催された全国高等学校総合体育大会に出場。残念ながら準決勝で敗れました。しかし、同十月十六日、富山国体の少年Aの部で、決勝進出はならなかったものの自己ベストを1分53秒38に更新しました。

「今年こそ！」の声援の中、先月五月二十七日の高等学校総合体育大会の岐阜県予選では大会新記録で軽く優勝。この後、東海、全国大会が待っているわけですが、母校の学友、先輩、先生たちだけでなく、郷土全体からも熱い期待が寄せられています。

写真上＝去年の東海高校総体で、激戦の八〇〇メートルを制した百々君（７０５）。［写真は岐阜新聞提供］

写真左＝文部科学大臣賞を獲得した成瀬智美さんの作品「コウホネ」

植物画で文部科学大臣賞

成瀬智美さんが快挙

成瀬智美さん

今年三月二十五日、当時二年生だった成瀬智美さん（なるせ・ともみ、中津川市阿木出身）は、国立科学博物館（林田英樹館長、東京都）が募集した「第十七回植物画コンクール」で、最高位の文部科学大臣賞を受賞するという偉業に輝きました。

このコンクールは同博物館が毎年募集しており、趣旨は植物の絵を描くことで植物を正しく観察し、植物の特性をより理解して興味を持ち、自然保護の関心を高めようというもの。

今年は全国から七千百七十点の応募があり、うち中学・高校の部は二千五百十三点、この中から成瀬さんが最高位を獲得しました。ちなみに、成瀬さんの同コンクール応募は阿木小学校五年のときから六回目。同大臣賞受賞は阿木中学一年のときに続いて二回目の快挙で、次席の同博物館長賞も二回受賞というすばらしい成績です。

今回受賞の作品は、スイレン（睡蓮）科のコウホネ（河骨）という植物を八ツ切り版の大きさに透明水彩絵の具で描いた物ですが、葉脈や根などが繊細に描写されているため、カラー写真と見違えるほど。

成瀬さんの話＝絵を描くことは小学生のときから大好き。今度も短時間で思うように描くことができました。将来は美術系の大学に進み、絵を生かせる仕事につきたいと思っています。

平成12年度・卒業生

187人が大学へ進学

平成十二年度の卒業生は、普通科一九九人（前年度一九八）、理数科七八人（同八〇）、合計二七七人（同二七八）で、このうち一八七人が大学へ進学しました。

（　）内は前年度の合格者数です。

◎国立大学…75（75）人
帯広畜産1、北海道1、弘前1、岩手1、東北2、秋田1、山形1、図書館情報1、筑波3、宇都宮1、群馬1、埼玉2、千葉1、東京芸術1、横浜国立3、新潟2、上越教育1、富山4、富山医科薬科1、金沢3、福井2、山梨2、信州5、静岡5、愛知教育2、名古屋6、名古屋工業2、岐阜7、三重2、大阪1、大阪外国語1、鳥取2、岡山1、山口1、香川1、高知医科1、大分1、宮崎1、

◎公立大学…21（20）人
岩手県立1、青森公立1、東京都立2、福井県立3、都留文科2、岐阜県立看護2、静岡県立3、愛知県立2、名古屋市立1、滋賀県立1、神戸市看護1、岡山県立1、尾道1、

◎私立大学…381（372）人

「天まで届け」と大合唱
『城陵歌』誕生して75年
作詞者 吉田さん六十年祭

昨年八月十一日、同窓会有志は第60回・北斗祭実行委員会＝委員長・石垣明さん［中17］＝の呼びかけで坂下町比丘尼平墓地に集まり「城陵歌（大会の歌）」の作詞者・故吉田美一さん＝よしだ・よしいち［中1］一九四一死去、享年三五歳＝をしのぶ慰霊祭「北斗祭」を営みました。

吉田さんは開校間もない恵那中から一高、東京帝大へと進学した秀才。大正十五年（一九二六）に作詞した「城陵歌」は昭和四年に誕生した校歌よりも歴史が古く、今も同窓生の心の歌として歌い継がれています。八月十一日は吉田さんの命日。「北斗祭」は「城陵歌」の歌詞から引用したもので、同窓会有志は毎年墓前に集まって「城陵歌」を歌うことにしていますが、特に、昨年は「城陵歌」が誕生して七十五年、吉田さんが亡くなって六十年に当たるため、盛大な慰霊祭を行なうことになったもの。

この日は来賓として吉田さんの末弟妹・楯又八郎さん＝元東天紅常務＝、同愛子さん［実24］らを招き、石井新太郎校長［高12］、柘植章同窓会長［高8］、加藤利徳岐阜県議［中19］、森川正昭恵那市長［中19］藤公雄恵那市議［高12］ら同窓会員合計六十一人が参加。校歌斉唱に始まり、墓前に菊花を供えた後、全員青春時代に帰って天まで届けと「城陵歌」の大合唱を行ないました。

この後、会場を山口村の望仙楼に移し、楯又八郎さんの講演「兄・吉田美一の思い出」を聴き、和やかな懇親会。ユニークな同窓会となって話が弾みました。

写真上＝「第60回・北斗祭」参加者の記念撮影

「創立記念日」講演会
講師に水野真木子さん

毎年「創立記念日」に開催している〝恵那高版〟の「ようこそ先輩」記念講演。去年は四月二十四日に名古屋大学医学部第二外科教授の中尾昭公さん［高18］を招き「がんの外科と肝臓移植」。今年は立命館大講師、日本司法通訳人協会副会長の水野真木子さん［高28］を招いて「国際化とコミュニケーション」を聴講。ともに誠に有意義な講演でしたが、同窓生にも多数聴講してもらいたいもの。

中23回が文集を発行

昨年七月、中学23回生たちは、旅行記、随想、恵那中の思い出などをまとめた文集「はなのき」（上）を創刊。原稿の集まり次第順次編集し、今年五月には第五号になりました。

編集の担当は小林正喬さん（横浜市在住）で、現在、同級生有志三十五人に配付しています。

北海道薬科1、酪農学園6、自治医科1、東京国際1、駿河台1、獨協2、文教1、尚美学園1、麗澤4、東京成徳1、亜細亜4、青山学院3、桜美林5、学習院4、北里4、杏林1、国立音大1、慶応義塾2、工学院2、国学院5、国際基督教1、国士舘1、駒沢1、芝浦工業3、順天堂1、上智1、昭和女子1、成蹊2、専修4、大東文化1、大正2、玉川1、中央6、帝京3、東海3、東京家政学院1、東京農業4、東京理科5、東洋7、日本8、日本歯科1、日本獣医畜産3、法政5、武蔵1、武蔵野美術2、明治15、明治学院7、立教3、立正1、早稲田7、麻布1、

神奈川7、関東学院1、フェリス女学院2、新潟医療福祉1、長岡造形1、金沢工業13、北陸2、仁愛1、松本歯科1、朝日1、岐阜女子4、聖徳学園岐阜教育4、東海女子1、静岡理工科1、聖隷クリフトファー1、愛知8、愛知学院8、愛知医科2、愛知工業9、愛知淑徳3、金城学院3、椙山女学園2、中京5、中京女子2、中部11、豊田工大4、名古屋外国語3、名古屋商科3、名古屋女子1、藤田保健衛生3、南山26、日本福祉6、名城15、東海学園1、皇学館1、鈴鹿医療科学技保健衛生2、四日市1、

大谷1、京都外国語3、京都産業5、京都女子1、京都精華2、京都橘女子1、同志社2、同志社女子1、佛教1、立命館17、龍谷3、大阪芸術1、大阪産業2、大阪樟蔭女子1、関西外国語2、近畿3、摂南2、桃山学院1、関西学院4、甲南女子1、神戸学院2、奈良4、近畿福祉4、岡山理科2、川崎医療福祉1、吉備国際1、第一薬科1、

◎短期大学…34（38）人
北大医療技術短1、埼玉県立大短1、東京都立短1、川崎市立看護短1、静岡県立大短3、大阪府立看護短1、和歌山医大看護短1、岡山県短1、山脇学園短1、岐阜医療技術短5、中日本自動車短1、愛知女子短1、一宮女子短1、金城学院大短2、名古屋短4、藤田衛生技術短3、名古屋女子大短1、南山短4、

◎大学校…2（1）人
航空保安大学校1、防衛大学校1、

各地区・各回の動き

土岐 菊池龍雄さんが講演

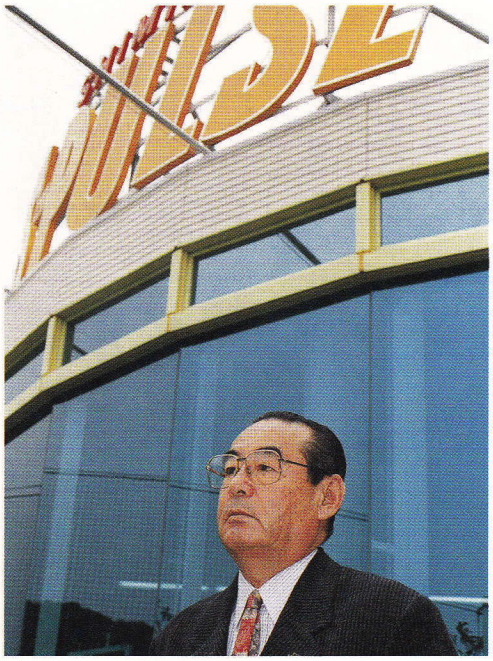
土岐市城陵会＝石浜健会長［中23］＝では、十一年度総会を六月十一日、セラトピア土岐で会員五十名が参加して開催した。

記念講演の講師は菊池龍雄さん＝加賀市・加賀神経サナトリウム理事長［中22］＝の「成人病について」。

中津川は平野和男さん

中津川恵那高会＝間譲嗣会長［中24］＝の総会は、昨年十一月十九日、四十五人が参加して、中津川駅前の勝宗で開いた。

恒例の記念講演は大同生命保険会長・平野和男さん［中24］の「新陳代謝について」。



写真＝エスパルスの経営責任者だったころの横田さん

名古屋は一三〇人が参加

名古屋恵那高会＝各務芳樹会長［中18］＝の総会は、昨年十一月二十四日、名鉄グランドホテルで百三十人が参加して開いた。

恵那　バンド演奏も登場

恵那城陵会＝水野智雄会長［高5］＝の総会は毎年二月十一日に開き、運営は当番制で今年は［高21］。恵那峡国際ホテルで開き、八十八人が出席。余興に成瀬雅裕［高21］さんと東濃ベンチャーズがバンド演奏して拍手喝さい。

東京・関西からも参加

坂下城陵会＝世話役・安江宗夫さん［中18］＝の総会は、昨年の十月二十八日川上村・夕森山荘で開催。参加者は十五人。遠く東京から小川留三さん［中12］関西からも村瀬徳之助さん［中12］らが参加した。

明智恵中会は第五回総会

明智恵中会＝保母政基会長［中12］＝は、昨年十一月二十五日、明智町・大衆レストハウスで十四人が参加して第五回の総会を開催。

東野 恵那山荘で総会

東野城陵会＝土方六須夫会長［中19］は、三月十日、二十人が参加して恵那山荘で開き、石井校長が来賓として出席。

一八会は毎年1泊2日

恵中一八会［中18］の同級会は毎年一泊二日。昨年は十月二十二、三日、名鉄犬山ホテルで三十人が参加して開催。二日目は明治村と竹田印刷を見学。

度会さんが得意芸を披露

「花の木会」［中20・21］の同級会は、昨年十月一日、恵那峡グランドホテルで五十人が参加して開催。度会賢吾さん（三郷歌舞伎保存会会長）が「鎌倉三代記」を披露して好評だった。

級友4人が叙勲の栄誉

恵中22同級会［中22］は、本年五月十八日、中津川・クアリゾート湯舟沢で五十六人が参加して開いた。席上、叙勲受章者四名、川村健司さん（国立市在住）、小島駿男さん（糸貫町）、鈴木一声さん（穂積町）、服部敏幸さん（名古屋市）が披露され、栄誉を祝福。

お断り

創刊号は、創刊決定後、収集できた情報のみで編集しました。不十分な点があることをおわびします。

原稿募集

各地区会・同級会のニュース、同窓生の話題などの情報と原稿を募集します。

◆字数…特に依頼するものを除き、四百字程度まで。
◆期限…ありません。
◆あて先…同窓会事務局

創刊号の編集担当　古山　精［中22］

恵那中魂 ①

清水エスパルスを強くした男

前社長　横田正毅さん

ちょうど一年後には日韓共同でサッカーのワールドカップが開催されます。現在、サッカーJリーグ一部（J1）の強豪と言えば、ジュビロ磐田と、もう一つ急成長で台頭してきた清水エスパルス。

このエスパルスの活躍を静かに見守っているのが、かつて同チームの経営母体・（株）エスラップ・コミュニケーションズの社長だった横田正毅さん＝よこた・せいき［中22］明智町出身、静岡市在住＝です。

成蹊大学卒業後、東海テレビに入社した横田さんは、その後、テレビ静岡に移り、同社の常務、専務取締役を歴任。平成五年（一九九三）エスラップ社の副社長、同七年に相談役となりました。

エスパルスに第一回の危機が訪れたのは平成八年のこと。経営母体企業のない〝市民クラブ・チーム〟のエスパルスは財政基盤が弱く解散の危機に。このとき横田さんは無理やり社長を押しつけられたのです。

持ち前の〝恵那中魂〟を発揮したのはそれから先。17億円だった選手報酬をなんと12億円に削る一方、若手選手の育成を図り「五年後の二〇〇一年には優勝を狙えるチームに…」と強化に努めました。

しかし、運営は好転せず、平成十年、再び会社は破産の危機に。「エスパルスの灯を消してなるものか」の一念が通って（株）鈴与に買収され、新会社（株）エスパルスの経営に変わりました。社長を退いた横田さんは、前会社の後始末を続け、三年後の今春、やっと自宅で静かな日を送るようになりました。

一方、エスパルスの躍進ぶりは皆さんご存じのとおり。横田さんの計画どおり若手が実力を付け、十一年の前期には待望の優勝を達成。今シーズンもジュビロ磐田としのぎを削っています。やがては総合優勝も夢ではありません。そのときこそ、横田さんの顔に会心のほおえみが浮かぶことでしょう。